

ひろがれ!!
西和賀の輪
たかはし かなえ
高橋 加奈恵 さん Vol.23

NO.71号の高橋駿平さんから紹介があった人は、県立前沢明峰支援学校で教諭として働く高橋加奈恵さんです。結婚を機に西和賀町に移住しました。昨年町の消防団に入隊しラッパ隊としても活動しています。

関連記事24ページ
(令和5年12月9日取材)

- 【特集】
- 行政視察報告…P2~7
 - 広報研修報告…P20~21
 - 12月定例会
補正予算、条例、同意…P8~11
 - 一般質問…P12~19



親子で楽しいひとときを「katasumi」にて(長瀬野)
(写真左下から陽子さん、加奈恵さん母祐子さん)

西和賀町に移住して頑張っている人や生まれてから現在まで西和賀町で暮らす皆さんを紹介します。
ひろがれ!! 西和賀の輪
Vol.23

たかはし かなえ
高橋 加奈恵 さん (耳取・41歳)

加奈恵さんは夫・能史さんと雪合戦をきっかけに結婚。能史さんの実家がある耳取に移住し、能史さんの母陽子さんと三人暮らしです。西和賀の大自然に魅せられて、山菜大好き女子になりました。雪合戦では、夫婦それぞれのチームで世界チャンピオンになりました。

問 県立前沢明峰支援学校で中学部の担任をしています。様々な障がいがある生徒と日々の学習を積み重ねています。生徒が生活に必要な力を身につけるために、保護者や関係機関の方々との協力しながら生徒の成長を見守っています。生徒の「できた」「嬉しい」「楽しい」を一緒に共有できたときは、とてもやりがいを感じます。

問 西和賀町に移住して感じたことは?

景色がとてもきれいです。特に初春の錦秋湖は最高です。紅葉の山と湖のコントラストも良いです。また、山菜が豊富で美味しいです。わらび、ぜんまいなど、約10種類ほどの山菜を山の畑で栽培しています。地域には山菜のことを熱心に教えてくださる先輩方が沢山いて、その方々との関りも楽しいです。雪が降って除雪が大変なときも近所の方々が手伝ってくれます。優しい方ばかりです。

問 議会や町に望むことはありますか?

きれいな景色、美味しい山菜、温かい温泉があるので、山や湖の景観整備をして、観光により力を入れてほしいです。自然や雪を活用した産業があれば面白いですが、また、公共の建物の改修や補修をすることで災害時の避難所の確保になると思います。空き家や耕作放棄地を再生利用して、町民が住みやすく安全な町になるといいですね。

紙上クイズ
スミからスミまで

空欄に適切な言葉を入れてご応募ください。
当選者には景品を差し上げます!!

- 【問題文】
- 議員の行政視察では「〇〇自治組織」の必要性と可能性を学んだ。(漢字2文字)
 - 4月から企画課は企画〇〇課に名称変更します。(漢字2文字)
 - 西和賀高校生寮整備へ〇〇〇〇万円の補助。(数字4桁)

- 【前号の答え】
- 集落 2. バス 3. 海外

【応募方法】
はがき、ファックス、WEB (Googleフォーム) で、答え、住所、氏名 (ふりがな)、年齢、連絡先をご記入ください。また、議会だよりに掲載のため、議会に対するご要望、ご意見などあわせてご記入ください。なお、匿名での受け付けはしません。

【応募先】
〒029-5512 西和賀町川尻40-40-71
西和賀町議事事務局「議会だより紙上クイズ」係まで、ファックスの場合は0197-82-2171まで、Googleフォームの場合は右のQRコードを読み取りご応募ください。

【締め切り】 2月13日消印有効とします。

【No.72の当選者の発表】
加藤達也 様(大野)・高橋 勝 様(太田)
石川房子 様(泉沢) おめでとうございます。

【発行責任者】
議長 高橋 雅一

【議会だよりは広報編集委員会にて編集しています】

委員 普本 歌織
副委員長 唐仁原俊博
委員 長 真嶋 実
副委員長 高橋 敏樹
委員 普本 歌織
委員 高橋 敏樹
委員 川田 敏樹

【臨時休憩】
今議会において、「イスラエルとパレスチナカザ地区における即時かつ持続的な人道的休戦を求める決議案」が満場一致で採択されました。西和賀の生命行政は「赤ん坊がコロナと死んでいく」状態を何とかせねば、との思いから始まっています。世界中のどの赤ん坊も、大切に守られなければならない。この決議は、西和賀町にとって大切な一歩だと感じます。

みなさんは新年をどのように迎えましたか? 2024年がみなさんにとって、幸せなものであるようにと、願わずにはいられません。

広報編集委員会
委員 普本 歌織

暮らしと地域を 自分でよくする方法



地区の生活を守るため住民自治組織が運営する「ひっぽのお店ふでいち」はクラウドファンディングなど、地区外からの支援も受けて開設された

全国各地で設立されている「住民自治組織」。 宮城県丸森町と山形県川西町を訪ね、 その必要性和可能性を学んだ。

人口減少や少子高齢化に対応するためには行政だけでは限界がある。「西和賀町まちづくり基本条例」においても「協働のまちづくり」がうたわれている。住民がいきいきと暮らししていくためにも住民や行政など、異なる主体が、対等な関係で地域づくり活動に取り組む必要がある。

そして、協働のまちづくりを進めるためには、その担い手となる「住民自治組織」が欠かせない。「地域の暮らしを守るため」「地域で暮らす人々を中心となって形成され」「地域課題の解決に向けた取り組みを継続的に実践する」住民自治組織は、20年ほど前から、全国各地で設立されている。

町においては行政区単位などでさまざまな活動が行われてきたが、10年以上活動を続ける2地区の住民自治組織を視察し、学んできたことをここで報告したい。

必要なのは住民の危機意識と活動のための予算

今回訪ねた丸森町筆甫地区と川西町東沢地区には共通点があった。ひとつは、地区存続に対する危機感が活動の原動力となっている点だ。

「同じ町内でも、中心部より過疎化が進む地区のほうが住民自治組織の活動が活発だ」という話が両地区で出た。人口減少などの課題を自分ごととして捉え、「解決のために自分たちが動く」と決意することが自治組織設立の最初のステップになりそうだ。

もうひとつの共通点が、町の方針として、自治組織が活動するための予算をつけていることだ。加えて、地区内で自主事業を行った、協力を集めたりして、さらに予算を積み増している。

* 住民自治組織に関する参考資料
地方制度調査会『今後の地方自治制度のあり方に関する答申』（平成15年11月13日）
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000076121.pdf>
入山泰郎『地域自治組織 ～合併論議の次にくるもの～』（平成16年8月16日）
<https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=13960>

* 行政視察
西和賀町の抱えている課題解決と議員の資質向上、議会の活発化を図るため先進地の調査研修を実施し、町政の発展に寄与することを目的とする視察。

知ってるようで知らない 議会deお勉強! ④7

今回は
ぎょうせい し さつ
行政視察
についてじゃ

●議会の仕組みや難しい用語をできるだけやさしく説明していきます。

なるほど。10月に行われた西和賀町議会の行政視察は何を学んできたの？

そうなんだあ。じゃあ議員の行政視察は、どういうことをするの？

行政視察ってなあに？

ふむふむ。行政視察とは、他の市町村に出向き、現地や現場の様子を見て、事業や政策について調査することなんじゃ。

そうじゃなあ。他の市町村の先進的な取り組みを調査するのはもちろんじゃが、西和賀町の事業に生かせる点を学んだり、行った先の議員や関係者と意見交換をしたりするんじゃ。

うむ。今回の視察では、いろいろ学んできたぞ。2地区の実態を見て聞いて、西和賀町の地域が今後どうあればいいのか、課題の解決のために動き出すヒントがたくさん得られたんじゃ。
(関連 2ページ～4ページ)

会議規則等、西和賀町例規集は西和賀町公式ホームページでご覧いただけます
(https://en3-jg.d1-law.com/nishiwaga/d1w_reiki/reiki.html)



視察の概要

- [日程] 令和5年10月23日～24日
- [テーマ] 住民自治組織の活動
- [視察先] 宮城県丸森町
宮城県丸森町 筆甫(ひっぽ)地区
山形県川西町 東沢地区
- [参加者] 議員11人(中村ひとみ議員は所用で欠席)
- [視察費] 視察にかかった経費のうちおよそ4万4000円は公費、7000円は自己負担。(一人あたり)



住民自治組織と自治体の関係について聞く(丸森町役場)

両地区には違いもある。当時を知る丸森町議員から「丸森町における協働のまちづくりはトップダウンで始まった」と話が合った。町が町内8地区にそれぞれの特色を生かした計画づくりを働きかけたのが平成13年、各地区で住民自治組織が設立されたのが平成19年と、全国的にもかなり早い時期に動き出している。

一方の東沢地区は、自治組織の重要性が認識されるよりも早く、平成初期には地区が一丸となって、

地区活性化のために活動を始めた、いわばボトムアップ型だ。

西和賀町においては、トップダウン・ボトムアップともに動きがにぶい。現場を見てきた私たち議員が、行政・住民の両方に働きかけて、行動を促す必要があるだろう。

この記事で住民自治組織に関心を持っていただけたのなら、ぜひお近くの議員にお声がけいただき、より詳しく話を聞いてもらえれば幸いです。

隣町の取り組みに学ぶ

11月7日、恒例となっている雫石町議会との研修は雫石町を会場に行われました。令和5年新築された「いわて雫石アーチェリーセンター」と閉校した小学校を利用してスポーツクラブを誘致した「鷲宿温泉スポーツセンター」を視察しました。西和賀町議会と雫石町議会では、毎年交互に会場を替え視察を行い、交流を深めています。



アーチェリー専用施設を視察

新議員、一生懸命勉強中

岩手県町村議会議長会の主催による新議員研修が11月24日に行われ、本議会から4人の新議員が参加。地方議会の組織と運営、議会・議員の役割などを学びました。講義の合間には県内町村議会の新議員との意見交換もあり、議員個人・議会としてどのように役割を果たしていくのかを考えさせられる研修となりました。



今求められる議会とは

「地域計画」勉強会

12月6日、地域計画研究所代表の井原満明氏を迎え、町の農業の現状と地域計画について勉強会を開催しました。農地の「地域計画」と合わせて「集落の計画」をつくるのが、課題解決の第一歩だと学びました。現在町の大きな課題となっている農業問題を再認識し、議員間の問題意識の共有を図ることができました。



集落の計画の大切さを学ぶ

お知らせ

「読者コーナー」では広く町民の皆さんの声を掲載します。はがき・ファックス・メールなどで声をお寄せ下さい。今号からWEB(Googleフォーム)でもクイズ解答、議会に対するご要望・ご意見を受け付けます。



←こちらのQRコードを読み取るとクイズ解答フォームへ移動します。

議長交際費をお知らせします

(令和5年9月16日～令和5年12月12日までの内訳)

お祝い	0件	0円
会費	2件	22,800円
お悔み (花輪なども含みます)	3件	15,000円

勉強になります

毎回、議会だよりを楽しみにしています。紙面をとおして、とても勉強になります。町内のことがわかるのでうれしいです。
大野 加藤達也さん

議会だよりにしわが



いつもご愛読ありがとうございます

今後も議会情報をわかりやすくお知らせします。
広報編集常任委員



みなさんにわかりやすい広報作りに努めます。
広報編集常任委員

議会だよりをスミからスミまで読んでいます。下の欄に説明があつてわかりやすくなっています。だんだんむずかしくて理解ができません。これから雪になりにます。議員の皆様お身体を大切に。
泉沢 石川房子さん

「地区計画」の策定が第一歩



ふるさと振興課 高橋光世 課長

筆甫地区と東沢地区どちらにも共通していたことは、地域住民がしっかりとした目的意識を持って自治活動に取り組んでいることであり、そのことが地域づくりの原動力になっていたことである。

これは単なる私の印象ではなく、両地区においても、活動の裏付け、根拠となるものが地域住民の間でしっかりと認知されている点を見逃してはならないと感じた。

それが何かというと「地区計画」である。この地区計画こそ、今後、地域づくり組織が活動を行っているうえでよりどころとなるものであり、本町でもその必要性や意義について検討を進めていかなければならないと感じたことである。

議員が地域づくりに責任を



*町政調査会 北村嗣雄 会長

筆甫地区では、住民自治組織を中心に、地域内の課題解決に取り組む、持続可能な地域形成と自立を目指す姿に感動した。

一方、東沢地区は、住民自治組織の「協働のまちづくり推進会議」

が平成17年の発足以来、地域が一体となり活動推進する体制を構築し、地区内の関係組織と会計を一元化するなどしたことが大きな強みになっていた。

本町では、今後人口減とともに地域の活力が失われることは想像に難くない。だからこそ先進地の事例を活かした、持続可能な地域づくりの推進が必要である。地区が活力を持ち、諸課題に対応していくために議員も尽力していきたい。

*町政調査会
議会基本条例に基づき町政全般にわたって、調査、研究や協議を行い、住民の意見要望を町政に反映させるため、さまざまな活動をしている。構成員は全議員。

次ページから視察した地区を詳細に報告!



地域づくりの拠点である筆甫地区まちづくりセンターで話を聞いた

災害対応でも注目を浴びる自治意識

筆甫



筆甫(ひっぽ)地区

面積：約74km²
 (西和賀町は約591km²)
 人口：約430人
 (昭和29年には3000人)
 高齢化率：62.3%
 標高：300~400mの高地
 町の中心部まで山道を車で25分
 中学校は平成19年度、
 小学校は令和4年度に閉校
 Facebook ページ
<https://www.facebook.com/marumori.hippo>



驚きの対応力はなぜ生まれたのか

令和元年東日本台風(台風19号)は宮城県丸森町にも大きな被害をもたらした。筆甫(ひっぽ)は地区内の被害に加え、地域外とつながる道が全て寸断され、孤立した。しかし、筆甫の住民らは避難所の運営や高齢者への声掛けなど、自分たちでできる活動をすぐさま開始。さらには、「家に土砂が入り込んで、葉がなくなってしまう」という住民の声を受け、消防団員らが全戸を訪問し、世帯ごとの食料備蓄や健康状態などの情報を収集。必要な薬があれば病院に手配し、ヘリによる救助要請などを町に伝えた。

下請けでも下部組織でもなく

令和元年東日本台風(台風19号)は宮城県丸森町にも大きな被害をもたらした。筆甫(ひっぽ)は地区内の被害に加え、地域外とつながる道が全て寸断され、孤立した。しかし、筆甫の住民らは避難所の運営や高齢者への声掛けなど、自分たちでできる活動をすぐさま開始。さらには、「家に土砂が入り込んで、葉がなくなってしまう」という住民の声を受け、消防団員らが全戸を訪問し、世帯ごとの食料備蓄や健康状態などの情報を収集。必要な薬があれば病院に手配し、ヘリによる救助要請などを町に伝えた。

令和元年東日本台風(台風19号)は宮城県丸森町にも大きな被害をもたらした。筆甫(ひっぽ)は地区内の被害に加え、地域外とつながる道が全て寸断され、孤立した。しかし、筆甫の住民らは避難所の運営や高齢者への声掛けなど、自分たちでできる活動をすぐさま開始。さらには、「家に土砂が入り込んで、葉がなくなってしまう」という住民の声を受け、消防団員らが全戸を訪問し、世帯ごとの食料備蓄や健康状態などの情報を収集。必要な薬があれば病院に手配し、ヘリによる救助要請などを町に伝えた。

振興連は地区住民全員で組織された団体だ。行政の下請けでも下部組織でもなく、自分たちのための自分たちの組織として、自分たちの暮らしを続け、よくしていくために活動している。振興連の活動方針は「地域の課題や実現したいことを話し合っって意見交換を繰り返す」「アンケートなどで住民の声を聞く」「まずやってみる。ダメならやり直す」



振興連の代表理事(会長) 庄司 一郎さん
 「人口減は避けられないが協力して乗り切りたい」

吉澤事務局長は地域に密着した仕事や暮らしに魅力を感じ、約20年前に移住した

「まわりを巻き込んでいく」
 そして「これらのアクションをひたすら繰り返す」というものだ。住民アンケートでは「重要度」

した「見出し」や「トピックス」「つばやぎ」など十数文字の短文を織り込み、読みやすく、読者をつかむ工夫が随所にちりばめてあります。

コーナーも充実しています。住民に顔写付きで登場してもらい、町政に対する声を上げてもらう「まちの声」。議会での発言を言いつば

なしで終わらせないために、政策として生かされたか、課題の解決につながったかを検証する「追跡記事」。

他自治体の議会だよりを見たり、議会広報に関する考え方に触れたりした結果、優れた議会広報誌に共通する、いくつかの特徴が見えてきました。

議会広報活動を充実させたい

「議会として、こんなことをした」「議員がこんな発言をした」という情報だけではなく、それらの活動が、どのように実を結んだのかまで伝えることが、「町民主役」の紙面づくりだと強く感銘を受けました。

議会の活動が充実しているか

住民の関心が高いことに応えているか、自治体の課題に真正面から向き合っているか、提言したことが確実に実現されるよう活動しているか

・議会だよりの編集・企画は適切か
 議会がさまざまな活動を行って、いるなかで、限りある紙面で、どんな情報を、どのように伝えるか
 ・議会だよりのデザイン
 「読みたい」と思ってもらえる見たい目をしているか

議会広報はどうあるべきか、議会だよりはどのような役割を果たすべきなのか。
 まだまだ手探りではありますが、議会はさまざまな改革に取りかかりつつあります。

ぜひ、これから注目してください。そして、声をお寄せください。

協働のまちづくり実現のため 議会広報活動をもっと充実させます！

よりよい紙面にするため研究中

- ・今まで以上に読みやすい紙面に
- ・これまで読んでいなかった人が「読んでみよう」と思えるように

議会や議会だよりへの声を募集

- ・議会で審議したことに関連する住民の声を議会だよりに掲載 (No.72 より)
- ・QRコードを掲載して、メール感覚で声を送られるように (今号より)

YouTubeでの議会配信を模索中

- ・議会の開催中にしか視聴できなかった審議の様子をYouTubeで好きなときに見られるように

広報編集常任委員会が主導

議会報告会開催を検討中

- ・決算や予算など、生活に大きく関わることを中心に町や議会の状況を住民に報告し、情報共有する

町政調査会が主導



議会や議員が何をしているのかをもっとわかりやすくもっと伝えるようになればいいんじゃないかな

埼玉県寄居(よりい)町の議会だより
 金ヶ崎議会を訪ねた際、「参考になる議会だよりは？」と質問して教えていただいたのが、寄居町議会だより
<https://www.town.yorii.saitama.jp/site/gikai/list16.html>



暮らし支え合い事業「筆甫お助け隊」
 家事や散歩相手、ペットの世話といった軽作業、草刈りや伐採など、あるいは送迎や買い物など、日々の暮らしのなかで手助けしてほしいときに作業者やお金の受け渡しを仲介

振興連が取り組む活動紹介

高齢者への声かけ・お助け隊
 民生児童委員中心だった「見守り」を地域全体のアクションに。困りごとを解決するために地域の人を派遣する「困りごと解決」を仕組み化

へそ大根ブランド化
 筆甫のソウルフード「へそ大根」(串に通して作る凍み大根)を地域の魅力を発信するツールにするためにもブランド化。生産に携わっているのは地区の一部だが、「地域の自慢の宝」として地域全体の誇りになる

西和賀町の議会広報って どうあるべきなんだろう



西和賀町は「協働のまちづくり」を掲げている。住民と議会が手を取り合って町をよくしていくために、議会の広報活動は欠かせない。なかでも議会だよりは重要な役割を担っているはずだ。

全国屈指の議会だよりから学ぶ

令和5年4月の選挙で、西和賀町議会は定数12のうち、6人の新人が当選しました。議会の顔ぶれがガラッと変わったことで、委員会の顔ぶれも変わりました。議会だよりの編集を担当する広報編集常任委員会は5人の委員のうち、新人が4人。

右往左往しながらも、昨年は71号72号の議会だよりを発行し、今号が3号目になりますが、これまでに何度か研修を実施しています。

令和5年9月には金ケ崎町議会を訪ねました。金ケ崎町議会だよりは全国コンクールで18年連続受賞を果たすなど、全国屈指の議会広報誌であり、その編集方針を学び、生かすためです。

中学生が読んでも理解できる「ありのままに解りやすい」紙面づくりを心掛け、議会事務局に頼らず「議員の力で」、議会定例会



金ケ崎町議会での研修の様子。レベルの高い議会広報誌がどのように作られるのか、その秘密を探った

の翌月第一週には町民の手にとどく「スピード発行」を目指す。これが金ケ崎議会だより編集に際しての「3つのモットー」です。

実際、金ケ崎町議会だよりを見てみると、写真や図表、見開きページといった目に訴える紙面づくりに加えて、スポーツ新聞を参考に

はじめた。「住民を巻き込むためには、住民自治組織が住民のニーズにこたえていると実感してもらうことが欠かせません」(吉澤事務局長)

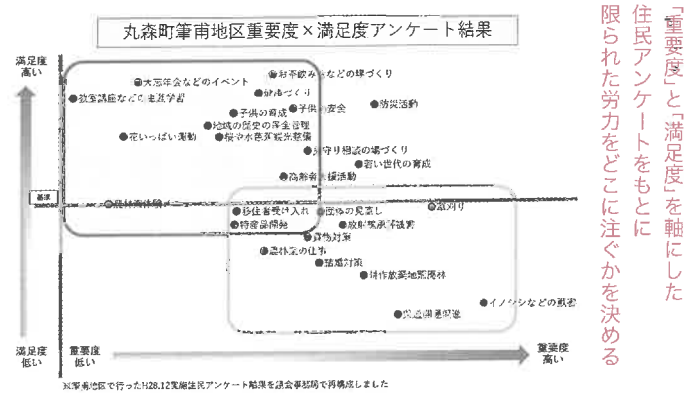
小さな失敗と成功を積み重ねて

生涯学習やお祭りなどのイベントを通じて、住民が普段から日常的に交流していること、「今、何が起きているのか」「これから何をしようとしているのか」を発信するため、広報紙を毎月発行し、情報発信に努めていることが、先進的な取り組みを支える足腰になっている。

地区内の店舗「ひっぽのお店ふでいち」やガソリンスタンドの運営まで行うようになった振興連だが、ここに至るまでに、たくさんの小さな失敗と小さな成功を積み重ねてきた。

持続的な地域であるために、地域の資源を活かして地域の価値を産み出す活動を行い、地域全体で収益をあげていく。

「厳しい状況でも、楽しみながらみんなを巻き込みながら挑戦を続けよう」。筆甫はそんな活気に満ちていた。



と「満足度」のふたつの軸で地区の取り組みを評価してもらった。満足度が高い活動は、現状維持を目指しつつ、ちょっと手を抜くという判断もあり得る。人手が減っている状況では取捨選択が必要だからだ。

一方、満足度が低く、重要度が高い事項は、「地域にとっての大きな課題」だ。一層力を入れなければならない。挑戦が求められる。

平成28年に実施した住民アンケートでは、イノシシ被害対策が急務だとわかった。そこで振興連が音頭を取り、箱罠を自作し、地区内に二十数機を設置。猟友会にも協力をあおぐなど、すぐに動き

筆甫地区振興連絡協議会について

組織の変遷

昭和53年 地区内の団体長等の連絡機関として設立
平成22年 町から施設の指定管理受託
地区住民全員で組織する団体に移行
平成30年 法人化し、一般社団法人に

組織の体制

理事会…地域の総合的課題の協議と実践
部会…部門ごとに協議と実践(地域振興&移住・生活・福祉)
委員会…テーマごとに委員会を設置し協議
事務局…基本的な事務執行部隊。職員数11人。

職員の配置

- 筆甫まちづくりセンター(5人)
常勤 事務局長(兼 第2層生活支援コーディネーター)
事務局長次長(集落支援員)
- 非常勤 3人(うち1人は第2層生活支援コーディネーター)
- ひっぽのお店ふでいち(4人)
常勤 1人(移動販売担当・ガソリンスタンドも兼務)
非常勤 3人
- ガソリンスタンド(2人)
常勤 2人(店舗担当・配達業務担当)

予算規模

約1億8600万円(令和4年度、収入ベース)

収入内訳

(1) 町等からの収入 1910万円

- ① 指定管理料 470万円
- ② まちづくり交付金 840万円
- ③ 集落支援員業務 400万円
- ④ 復興支援員業務 110万円
- ⑤ 生活支援コーディネーター業務 90万円

(2) 地域が取り組む自主事業 1億6690万円

- ⑥ 自主事業(店舗) 2200万円
- ⑦ 自主事業(ガソリンスタンド) 1億4000万円
- ⑧ 自主事業(その他) 490万円

※ 営農、町道管理、イノシシ捕獲、広報紙送付など



養蚕業再興の一環として桑茶生産も 小規模ながら充実した品揃えの「ふでいち」

移住推進
東日本大震災によって停滞していた移住推進を再開。独自に情報発信やパンフレット制作に取り組み、町任せではなく、地区として活動

ガソリンスタンドの事業承継
地区内唯一のガソリンスタンドが廃業を検討していたため、協議を重ねて事業を承継。地域内の雇用・ライフライン確保

筆甫のお店ふでいち
買物弱者対策として、店舗運営と移動販売を実施。可能な限り地区内で経済を循環させ、直売所に商品をおくる住民にとっては所得向上につながる

議会だより「かねがさき」
平成25年町村議会広報全国コンクール最優秀賞、全国コンクールで18年連続受賞、岩手県町村議会広報コンクールでは平成15年以來19回入選と、高い評価を受けている
<https://www.town.kanegasaki.iwate.jp/gikai/dayori.html>



質問

大規模酪農事業の影響は

町長 懸念も理解し地域活性化に期待



たかはし ひろし 高橋 宏 議員

一般質問を終えて

地域を分断する振興計画はあり得ない。町の支援体制は



地域の木材を利用して建築された東沢活性化センター

出生数激減をきっかけに住民が一致団結

ひがしざわ

東沢



東沢地区

面積：約 22.7km²
(西和賀町は約 591km²)
人口：約 460 人
(平成 24 年には約 730 人)
高齢化率：33.2%
標高：220m～
なだらかな里山のふもと
中学校は昭和 53 年度、
小学校は平成 29 年度に閉校
東沢地区交流センター
ホームページ
<https://www.zawa21.net/>



山村留学を受け入れることで鍛えられた地域力

地域づくりが評価され「ディスカパー農山漁村の宝」「豊かなむらづくり全国表彰」「田園自然再生活動コンクール」など、多くの受賞歴を持つ川西町の東沢地区。転機は昭和62年に訪れた。それまで地区の出生数は毎年10人程度。それがいきなり2人まで落ち込んだのだ。

このままでは地区の存続が危ぶまれる。地区の内だけ見ても解決できない問題を前に、地区の有志は都市住民との交流が必要と考え、当時、全国に広まりつつあった山村留学に希望を見出した。翌年には検討委員会を設置し、翌々年の平成元年に準備委員会を立ち上げた。平成3年に地域全戸加入の山村留学協力を設立し、



「みちのく東沢やんちゃ留学」が始まった。これまで受け入れた人数は夏休

みを利用した短期留学が約800人、1学期以上1年以内の長期留学では44人にのぼる。(東沢小学校の閉校に伴い、長期留学は停止。)そして山村留学が長く続いているからこそできたつながりや、派生した事業などが、さらに交流人口を増やすという好循環も生まれている。

地域づくりを長く続ける秘訣は

東沢地区では平成18年以降、5年ごとに「地区計画」を策定している。地区計画の進捗管理や行政への提言、地域住民の参加促進などを担うのが「東沢地区協働のまちづくり推進会議」(以下、推進会議)だ。前身となる「東沢地域づくり推進協議会」は地区内の7つの団体を統合するかたちで生まれた。団

畜産振興の方向性

問 湯田牛乳公社が大規模酪農事業を計画しているが、町の畜産振興の方向性に変更はあるか。

農業振興課長 各種補助事業や価格高騰対策事業は現段階で変更する予定はない。農地利用に関する地元農家との調整には着手していない。

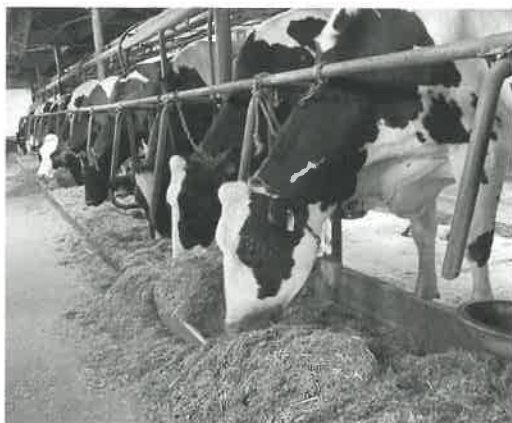
問 12月4日の地域への説明会ではさまざまな不安要素が出た。地域計画策定などへの影響は。

町長 地域計画は現状を踏まえての計画を立てるものであり、その後の変化に応じて随時見直す。湯田牛乳公社で今回取り組もうとしている事業は、先端技術を導入し就業体制を整え、強い酪農業を目指す

す取り組みと聞き、町としても支援に値すると考えたが、環境への影響、事業の具体化への不安が出たのは事実である。町としては可能ならば北部開発との相乗効果も期待し地域活性化に取り組みたい。

問 乳牛の飼育頭数を増頭することによる糞尿処理への対応は検討しているか。

農業振興課長 糞尿処理で現在の施設を拡張する予定はない。酪農事業の推移をみて対処したい。



現在の乳牛飼育状況

住民自治組織の立ち上げ

問 行政視察に行った宮城県丸森町には職員を地域の現状と課題の把握をさせるために各地区に配置する「地域サポーター職員制度」があった。住民自治組織の設立のためにも取り入れていくべきと考えるが導入の可能性は。

ふるさと振興課長代理 丸森町と本町では諸条件、状況が異なっており、制度運用は難しい。職員の集落支援の在り方は、町の課題であり現在配置している集落支援員との整合性を図り仕組みを作りたい。

問 視察先では、地域の危機を解決するために住民自治組織を立ち上げていた。現在の町の危機は来年度から耕作放棄地が多発することではないか。

農業振興課長 西和賀町農業農村振興プランでは、農業施策として単に経済的な側面だけでなく農村施策として地域の生活・文化的な側面からも捉えることとしている。地域内の話し合いが進むよう積極的に関わっていききたい。

東沢地区での取り組み紹介

加工品を手掛ける女性グループ 「田舎のお母さん」たちの手作りによる各種野菜のみそ漬けやしょうゆ漬けの開発、地元農産物を使用した加工品の生産販売、弁当の仕出しを手掛け、女性の雇用や所得の確保につなげる

環境や景観への意識づくり 平成19年と、かなり早い時期に、地域全戸にオリジナルマイバッグを配布。また、地域内の雑木伐採や桜の植樹、管理を行い、景観整備にも力を入れる

交通弱者の「足」を確保 平成18年に設立したNPOが地域住民に移動手段と買い物代行サービスを提供。また、高齢者世帯などの生活弱者に対しては在宅支援も

質問

熊害対策「追い払い」の効果は

林業振興課長

県・町と住民が一体となった対策が必要



なかむら 中村 ひとみ 議員

一般質問を終えて

魅力的な地域づくりが 獣害被害を減らす鍵

熊被害対策の効果

問 町内の熊の生息状況や個体数の把握方法は。

林業振興課長 岩手県で設置したツキノワグマ管理検討委員会のデータで把握している。また、町独自の取り組みとして通報情報をもとに出没状況や位置を年度ごとに地図で管理している。

問 熊の出没による観光への影響は。

林業振興課長 基本的には、観光地の管理者や観光関係団体から観光客に向けての注意喚起が必要だが、まずは熊にバツタリ会わない行動を心がけてほしい。

水道料金適正化に向けて

問 次年度に予定している水道料金の適正化に向け、公平性の担保と「西和賀町水道料金検討委員会」の検討状況は。

上下水道課長 委員会は令和5年3月に1回目を開催し、水道事業の経営状況の確認、8月には令和4年度に策定した現在の水道施設を維持した場合の更新需要と財務分析、令和4年度決算による経営状況を確認しながら、適正化に向け協議している。委員会では、業種による用途別区分が良いのか、使用水量による完全従量制の口径別が良いのかを協議している。

人口減少による将来水需要の減少を踏まえ、水道施設の中長期的な再編整備構想も視野に入れ、適正な料

人里クマ 師走も注意



被害対策の体制整備は急務

問 町が推奨する「追い払い」の効果は。

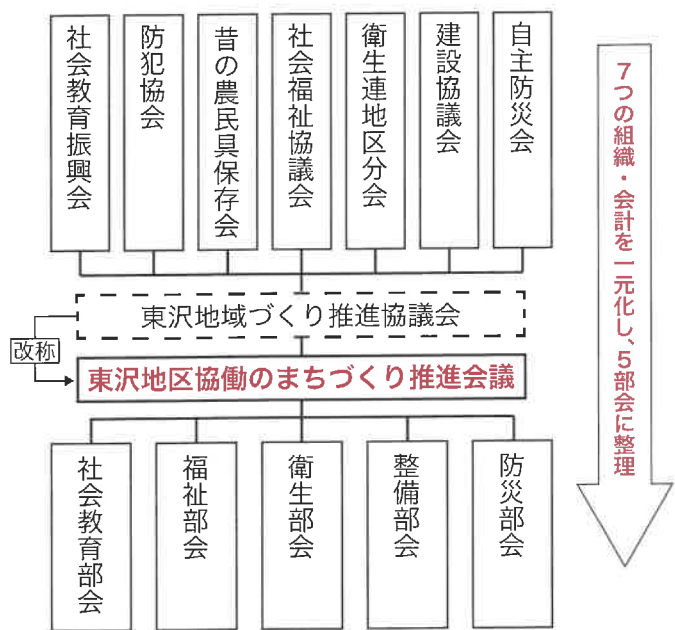
林業振興課長 やみくもに捕獲することではできず、県が定めた手順に従い対応した。(①追払い②守る③捕まえる) 異例の出没数に十分対応しきれなかったため、総括を行い体制の整備を図りたい。

東沢地区協働のまちづくり推進会議について

組織の変遷

- 平成3年 「やんちゃ留学」開始
- 平成5年 自治省(当時)の「コミュニティ活動活性化推進事業」の指定(3か年)を受け、やんちゃ留学同窓会の開催、炭焼き釜の建設、地域案内板の設置、町田市ひなた村祭りへの全校生参加などの事業を実施。「地域の歴史伝統文化を守り、都市と農村の交流によって地域活性化を図る」という、地域づくりのコンセプトが確立される
- 平成7年 有志21人が「東沢みらい21委員会」を立ち上げ、1年間の議論を経て10か年の目標を掲げた「東沢地域整備計画」を策定
- 平成8年 各種団体からなる「東沢地域づくり推進協議会」を設立
- 平成16年 川西町「まちづくり基本条例」を制定
- 平成18年 まちづくり基本条例において「協働」が掲げられたことから「東沢地域づくり推進協議会」を「東沢地区協働のまちづくり推進会議」に改称

組織の体制



事業運営費

- 町からの事業交付金 (令和5年予算で、川西町は「協働のまちづくり推進事業」として、各地区まちづくり地域支援事業交付金980万円を計上している)
- 地区内で集めた協助力金
- 事業ごとに助成金や補助金を申請
- 東沢活性化センターなどの指定管理料

体には役職者が必要だ。無理に現状維持するのではなく、人が減っているという現実に対応するため判断だった。一元化すれば会計などの事務も軽減できる。負担軽減の意味から、地区を挙げての行事も5つに整理した。そうした施策から、東沢地区の取り組みは先進的であると同時に、「無理をしない」「やると決めたことは集中してやる」という考えも読み取れる。「無理をしない」とは言っても、山村留学協会の地域の全戸が加入したことからわかるように、地域

存続の危機感から生じた熱量は相当なものだったことがうかがえる。その熱量を生かすことができるか、きたひとつの要因は、対象を東京都町田市に限定したことではないか。川西町は日本最大級のダリア園でも知られるが、町田市のダリア園立ち上げに協力した経緯から両自治体には縁があった。「全国から児童を集めよう」よりも、「町田市から集めよう」のほうがいい。縁を頼りにしながら、ある意味、一点突破で事業を進めていったからこそ、すぐに取っかかることが

できたし、双方向的で濃密な交流につながったのではないだろうか。最後に東沢地区の人々が地域づくりを成功させるために必要だと考えている要素について紹介したい。

1. リーダーが育つ地域 One for all. All for One. 自己犠牲をいとわなく
2. 地域住民と情報の共有
3. まず話し合い、必ず決める、必ず実行する (だから地域計画が必要)
4. PDCAを確実に
5. 外部からの評価



視察に対応していただいた御三方
推進会議事務局長 佐々木 英之さん
推進会議会長 阪野 正則さん
元川西町議会議員 佐々木 賢一さん

付加価値の高い農業 エコファーマー認定者が堆肥投入による土作りや化学肥料・農薬使用を減らした米栽培を推進し、付加価値の高い米を直接販売

東沢地区の山村留学について 「第51回農林水産祭表彰事業 豊かなむらづくり全国表彰」において東北ブロック農林水産大臣賞を受賞した際の資料が詳しい https://www.maff.go.jp/tohoku/nouson/murazakuri/file/pdf/06_h24.pdf



金体系や料金設定を行っていききたい。

現在も検討が続く水道料金の見直し



質問

町長主導で北上線の価値再創造を

町長 参考にさせていただく

問 町長主導のもと、観光や貨物も含めた北上線の「多面的価値」再創造に取り組むことが必要と考えるが、

町長 参考にさせていただく。

買い物環境の整備

問 「買い物支援」の先進事例として町内各地区で様々な取組みをしているが、行政に何ができるか検討しているか。

町長 買い物問題を明確にした支援



イベントでは北上線無料乗車も行われた。

北上線の存続と公共交通計画

問 11月にはイベントが開催されたが、来年の「北上線開通100周年」準備は途切れることなく進められているか。また、駅周辺での資料展示や、列車内でのミニコンサートなど小さな企画から積み上げる必要はないか。

企画課長代理 関係機関と調整を進めていく。

西高学生寮さらに充実

学生寮整備費補助金 1000万円

Q 今回整備の具体的な内容は、

学務課 来年度入学を希望する西和賀高校新入生で、寮の利用希望が多く見込まれており、また県外からの生徒募集も

考慮すると現在の男子寮、女子寮の2施設では対応が難しい。そこで新たに女子寮を整備する。セキュリティ面は寮を管理する事業者と対応を協議する。

令和5年12月定例会の主な審議

補正予算の議論から一部を抜粋してお知らせします。12月定例会での議員の欠席、遅刻はありませんでした。

補正予算

西和賀高校「寮希望者」増加の見込み

条例改正

川舟郵便局で住民票の写し等が交付可能に

12月13日から15日に第6回町議会定例会を開催しました。一般質問は13・14日に7人が行ったほか、14日には条例12件、15日には補正予算7件、その他議案合わせて8件を審議し、いずれもすべての原案を全員賛成で可決しました。

議会だよりの審議や質疑の記事は、抜粋や要約をしています。正確には、後日町のホームページに公開する会議録をご覧ください。
https://www.town.nishiwaga.ig.jp



町外出身者も安心して生活しています

みんなの声



(左から)西和賀高校 菊池 未来さん 2年、菅野 咲穂里さん 2年、照井 日心さん 1年

- Q 寮の良いところは？
「寮に温泉があるところ。温泉のおかげで、いつも暖かいです」
- Q 自宅と寮とどちらの生活がいいですか？
「寮の方がめちゃくちゃいいです」
- Q 寮に入るかどうか悩んでいる人がいたら？
「ゼツタイに入るべきだと、勧めます」
- Q 寮の運営に町の支援があることを知っている？
「もちろんです。とても感謝しています。いつか西和賀町に恩返ししたいと思っています」



いつも、和気あいあいと配膳

住民懇談会等 町民の声への対応

問 町政懇談会での意見を踏まえ、改善し取り組んでいる事項はあるか。

企画課長代理 出された意見や要望に直接対応した事案は多くないが、個別の事業で見直しや取組みを強化している。

問 意見・要望を、後期基本計画に反映した点はあるか。

企画課長代理 基本構想審議会では文言等の修正を行ったが、懇談会でも出された意見や要望による修正はなかった。

問 町のホームページにある「まちづくり懇談会」や「町政への意見・提言」呼び掛けに、どのような声が寄せられているか。

企画課長代理 平成30年度、令和元年度に申込みがあり懇談会を行った。意見・提言は、数件あった。

問 町に対し町民がもっと声を上げようと思うには、町が町民の小さな声を吸い上げていく姿勢が大切ではないか。

町長 指摘の点、できるだけ対応し町民の方に向き合っているようにしたい。一方で協働基本条例などを踏まえ、お互いにやり繰りしてつくりあげ解決していく。協働の精神でどう解決しているか向き合っていないかなければならない。



まじま 真嶋 議員

一般質問を終えて

「協働の精神で解決」と言うのが町民と大きな垣根はないか

質問

買い物弱者対策、急務では

ふるさと振興課長代理

横断的に取り組む必要がある

ふるさと振興課長代理

いる声が寄せられている。実態調査については今後検討する。

観光商工課長 車両購入では、①西和賀町創業支援事業補助金があり、産業振興と活性化を図るために新たに創業する際の経費、施設設備の取得が対象になる。



かりた さとし 劉田 敏 議員

一般質問を終えて

まずは実態を知ることから

な施策としてどのようなものがあるか。

問 買物の際に、移動手段として公共交通（おでかけバス）を利用している住民も少なくないと思われるが、その利用目的やニーズ調査は実施しているか。

町長 調査ではないが、独り暮らしや高齢者世帯、農業関係の地域活動で買い物に取り組んでいる話などいろいろ



通院以外の利用調査も必要

問 買い物弱者対策は、行政区や学区において自ら事業に乗り出せる体制が必要で、それには行政の支援もかかせない。町としても部署の垣根を越えて、横断的に取り組む必要があると考えるがどうか。

町長 部署の垣根を越えて取り組むべき課題と認識している。高齢化が進み、地域にある商店も減少している本町の大きな課題である。問題意識を持って取り組もうとする意欲のある地域に対しては町でも支援をしていく必要性を感じている。

問 買い物弱者対策として移動販売の導入事業や仮店舗の設置事業は有効と考えるが、助成の考えはあるか。

②西和賀町新ビジネスチャレンジ補助金では研究開発、販売促進、知的財産権等の取得事業の移動手段として使用する車両購入が対象になる。

ふるさと振興課長代理 仮店舗の設置

は、西和賀町空き家活用促進事業があり、10年以上その用途に活用することが条件で、限度額は100万円となっている。

問 地方創生事業のひとつとして「小さな拠点づくり」事業があるが本町において現実的に取り組み可能



今注目されている「小さな拠点づくり」



企業版ふるさと納税とは
こころざしある企業のみなさまが、寄附を通じて地方公共団体の行う地方創生の取組を応援した場合に、税制上の優遇措置が受けられる仕組み。
出典 西和賀町HPより一部抜粋

補正予算

財源を切り替え 地域ブランド推進事業

517万円

Q 当初予定していた交付金が不採択となり、財源を企業版ふるさと納税に切り替えましたが、不採択となった原因は、ふるさと納税の振興課長代理 今回事業 漁村振興交付金のテーマ

は商品開発が主眼だった。本町の計画は関係人口の拡大が中心だった。財源の見込みをしっかりと立てて事業を進めるべきと反省している。

みんなの声

西和賀町のふるさと納税は、令和5年4月から産業公社にて新しい体制でスタートしました。西和賀の出品者は、おもてなしの心で「いいもの」を「誠実に」作っています。再スタートを機に、出品者の想いを納税者に届け、末永いお付き合いをしていただける西和賀ファンを一人でも多く増やしたい。その架け橋になりたいと思います。

（株）西和賀産業公社 ふるさと納税担当者

Q 当初予算で保守修繕費はどの程度見込んでいたか。

病院事務局長 当初予算で医療機器や除雪車等の定期点検修繕に約900万円見込んでいた。ほとんどの機器が新病院開設時に購入したもので約10年経過しており、修繕の必要性が徐々に高まっている。

Q 長期の計画に医療機器修繕が入っていないというが、更新も計画に入っていないのか。

病院事務局長 医療機器の更新は臨床工学技士が中心となり管理や修繕計画を立てている。長期の修繕計画には細かい個々の詳細は掲載していない。

優先順位決め機器を更新 医療機器修繕費 179万円

みんなの声

医療機器の不具合は命にかかわってきますので、日頃から医療機器の使用、管理には注意を払っています。



西和賀さわかち病院 佐藤 美香 総看護師長

Q 医療機器はかなりの高額なものだと思いが精査が必要ではないか。

病院事務局長 院内で情報共有位を決め機器更新を行っている。今後さらに修繕が必要なものが出てくるので適正に計画を立てていく。

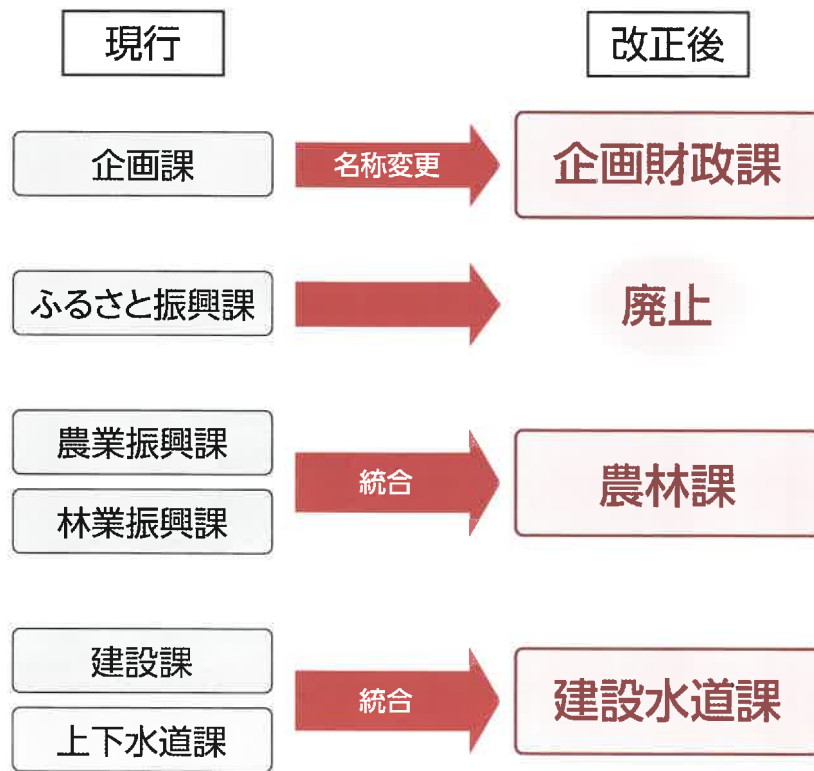


照射野に不具合が発生し、基盤の交換が必要となった乳房X線撮影装置

※ 放射線を当てる範囲

4月から町の組織が変わる 課設置条例の一部を改正

行政組織のスリム化を図り、効果的・効率的な行政運営を推進するため、課の再編を行います。再編の対象となる課は左図の通りです。



※その他の課は従来どおりです。
※ふるさと振興課の業務は企画財政課等にふり分けられる予定です。

川舟郵便局に多機能端末機設置 印鑑条例の一部を改正

川舟郵便局に多機能端末機を設置し、本人確認用に個人番号カード(マイナカード)等を利用した印鑑登録証明書の交付をできるようにするため、条例の一部を改正します。交付は3月開始予定です。

Q 川舟郵便局を選定した理由は、今後端末を増やす予定です。
A 役場からの距離を考慮して川舟郵便局を選定した。今後の端末の設置は郵便局に限ら

Q 「移動端末設備」とは何か。
A スマートフォンのこと。マイナカードの情報にスマートフォンに取り込めば多機能端末で証明書発行を行うことが出来る。

Q 役場でもマイナカードによる印鑑登録証明書の交付を申請できるか。
A 役場窓口では従来通り「印鑑登録証」の提示が必要になる。(関連11p)

みんなの声

庁舎に行かなくてもよいので、子育て中の方や、引っ越し手続きがある人にとっては便利だと思います。マイナカードがないと使えないのは、利用しにくい人いるのでは。



野中 真由美さん (川舟)

※本人の希望で似顔絵を掲載しています。

町内の教育資源のあり方は

問 本年度、保育所・保育園の適正配置を含めたあり方を検討しているが、検討の経過は。

学務課長 進む少子化、保育施設の老朽化等を踏まえ、「西和賀町保育所あり方検討委員会」を設置し、今後の方向性を検討した。令和5年3月から計5回開催し、報告書がまとまり、町長に提出した。町内の保育施設は統合することが望ましく、その上で新たな建物を整備する必要があると考える。

育所・保育園、小中学校を含めたビジョンを示した上で、町民に説明する必要があると考えている。

問 これからの西和賀町に必要な教育環境はどのようなものか。

教育長 学校での教科学習と合わせて、「西和賀での体験や経験」を大切にしたい。
小規模校の良さを最大限生かし、子どもたちが持つ可能性を喜び、一人一人が未来に希望をもって挑戦できる姿を目指し、支援したい。

問 今後町民からの意見を聞く場を設けるか。

学務課長 現在小・中学校のあり方も検討している。来年度前半には、保

妊産婦検診交通費補助は

問 6月定例会で、妊産婦検診時の交通費を助成してはどうか、と私から質問したが、その後の検討は。

健康福祉課長 今議会に補正予算計上し、令和5年4月に遡って助成する予定だ。

助成対象医療機関は、県内と横手市で、自家用車利用を想定し、距離に応じて経費を算定し助成する。



町内保育施設の担う役割は大きい

軽度難聴者への補聴器購入助成は

問 同様に、6月定例会で質問した、軽度難聴者への補聴器購入助成のその後の検討は。

健康福祉課長 助成内容等を具体的に協議しており、令和6年度から助成制度の運用を目指している。

その他の質問

- 自衛隊への個人情報提供方法
- パートナーシップ条例の制定

質問

町内の教育資源のあり方は

学務課長

保育所(園)の統合を視野に検討している



ふもと かおり 議員

一般質問を終えて

今後の西和賀の教育環境のために、みんなで知恵を出し合うべき

質問

弱体化する自治組織の再編は

町長 行政区単位の合同活動が望ましい

自治組織のあり方

問 現在、町には29行政区があり、その単位で自治活動が行われているが、人口減少や高齢化等により自治活動自体の弱体化が懸念されている。協働のまちづくりの推進のため、旧小学校区単位での住民自治組織作りを取り組むべきと思うが、町長の所見は。

は、その後に考えることが望ましい。

地域農業と地域計画

問 農業経営基盤強化促進法等の改正法が令和5年4月1日に施行されたことにより地域計画、いわゆる「人・農地プラン」を令和7年3月31日までに策定することが義務付けられた。今後の具体的な取り組みは。

農業振興課長 地域計画を策定する意義の理解を深めるため、農業委員、農地利用最適化委員に加え、中山間地域等直接支払金や多面的機能支払交付金の集落代表者、地域づくり団体代表者を対象として11月30日に説明会を開催した。
令和6年12月までに目標地図の素案を作成し、令和7年2月中旬まで



地域計画策定には農地の現状を把握することが重要

にこの素案をもとに地域計画の案を作成する。その後、関係機関の意見聴取、町民への説明会等を実施し、4月上旬には地域計画の公表を予定している。
地域計画は、策定した後も随時見直しをする予定である。



きたむら つくお 北村 嗣雄 議員

一般質問を終えて

自治組織の再編は必ず来る。町は今から模索すべきと考える

他市町村の戸籍証明書交付が可能に 手数料条例の一部を改正

川舟郵便局に多機能端末機を設置し、本人確認用に個人番号カード(マイナカード)等を利用した住民票の写しと印鑑登録証明書の交付を開始するため所要の改正をします。

Q 川舟郵便局の多機能端末や役場窓口で他市町村の戸籍証明書の交付が可能になるのか。

A 多機能端末で発行できるのは住民票

の写しと印鑑登録証明書で、戸籍証明書の発行は対応していない。他市町村の戸籍証明書交付は役場窓口でのみ発行が可能。

多機能端末機とは
タッチパネル等の簡単な操作により、必要な情報に接続し、「行政サービス」など様々なサービスを利用できる通信端末。



郵便局に設置される同型の多機能端末

みんなの声



かじか薬局 管理薬剤師 深津 暢広さん (川尻)

他県出身で、これまでは実家の母にお願いして戸籍証明を送ってもらうなど、大変だった。とても助かるので新しい制度が進んでくれることを願っています。

指定管理者の指定

町公共施設の指定管理者の指定は全て原案のとおり決定しました。指定期間は令和6年4月1日から令和9年3月31日までの3年間です。

施設の名称	指定管理者の名称
川尻温泉「ほっとゆだ」	(株)西和賀産業公社
レストハウスゆのさわ	(株)西和賀産業公社
焼地台公園	協同組合湯本商店会
湯本屋内温泉プール	西和賀町水泳協会
火葬場「にしわが斎苑」	北上ビルメン(株)
真昼温泉	下の沢集落運営協議会
健康管理センター「丑の湯」	湯本温泉協議会

西和賀町教育委員に同意

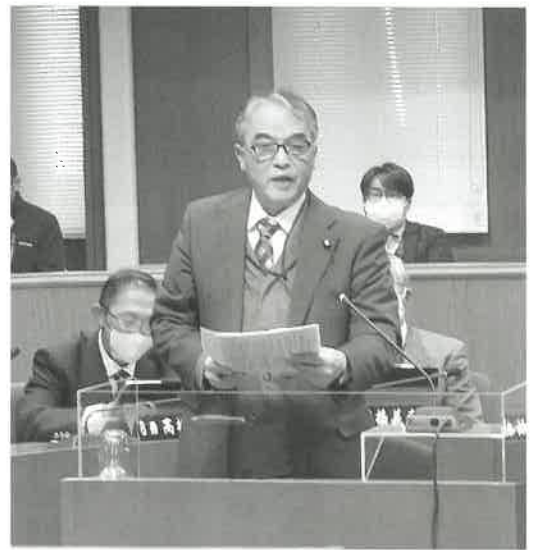
任期満了となる平藤壽子さんの再任に同意しました。任期は令和6年1月1日から令和9年12月31日までです。

再任 **平藤 壽子さん (73歳) 左草**



同意 1件

一般質問



議会傍聴はどなたでもできます。中座もできますので、時間にしばられることはありません。ぜひ、生の議会を体験してください。

一般質問とは

一般質問は、町が行うすべての事務や事業に関して何でも質問できる大事な議員活動の場です。

年4回の定例会のみで、臨時会ではできません。

・質問時間は30分
西和賀町議会では、議員が質問できる時間は30分以内です。答弁に制限時間はありません。

・一問一答方式
質問は、議員と町長が対面し、一つ質問をして一つの回答を得る一問一答方式です。この方法は、より問題を深められる方法といわれています。

・事前通告
質問したい議員には、前もって質問内容を記した事前通告書の提出を義務づけています。

・登壇順(質問順)
公平をきすために、通告書の届出順にくじ引きをし決定しています。

7人が質問 町民目線で深く鋭く 多方面に議論

(質問順)



唐仁原 俊博 議員
・地域おこし協力隊の採用・募集
・銀河ホールの設備
・獣害対策
・越中畑のサクラバハンノキ群落
・北上線運賃無料キャンペーン
・湯田ダム竣工60周年



北村 嗣雄 議員
・協働のまちづくり推進
・地域農業の将来のあり方



普本 歌織 議員
・妊産婦検診の交通費助成
・軽度難聴者への補聴器購入助成
・町内の教育資源(学校・保育所・保育園等)のあり方
・自衛隊への個人情報の提供方法
・パートナーシップ条例制定



刈田 敏 議員
・買い物弱者対策



真嶋 実 議員
・北上線の存続と公共交通計画
・買い物環境の整備
・住民懇談会等、町民の声への対応



中村 ひとみ 議員
・熊害対策
・水道料金



高橋 宏 議員
・畜産振興
・住民自治組織

*企画課長兼ふるさと振興課長が今定例会を欠席した為、答弁はそれぞれの代理が行っています。

獣害対策

問 本年度はクマの出没が相次いだ。熊害に対する町の基本姿勢は。また、基本姿勢と照らして、本年度の対策をどのように評価するか。

林業振興課長 ツキノワグマはやみくもに捕獲することはできず、岩手県において定めた手順に従い、「追払う」「閉る」「捕まえる」と段階を踏んでいる。

例年になく異常な出没(林業振興課への通報は240件。そのうち、人身被害2件、農業被害45件、物損被害37件)に対して、十分に対応しきれなかった面もあった。対策姿勢は適切であったと考えているが、総括を行い、体制の整備を図る。

また、ツキノワグマやイノシシは、移動が広範囲に及ぶため、近隣市町



設備の不調は集客にも影響

村との連携を進めたい。

銀河ホールの設備改修は

問 銀河ホールの空調設備やプロジェクターなど、頻りに利用されるにもかかわらず不調のまま放置されている設備がある。速やかに改修すべきでは。

生涯学習課長 文化創造館銀河ホール、Uホールともに完成から約30年が経過し、各種設備の更新や改修が必要であり、内部で協議しながら、改修費用の予算確保、計画的な改修に努めている。なかでも空調設備やプロジェクターの優先順位は高い。

JR北上線利用促進は

問 JR北上線利用促進をひとつのプロジェクトと捉えた場合、関連するさまざまな事業を取りまとめる立場としてプロデューサーを置くべきではないか。

企画課長代理 沿線自治体である本町、北上市、横手市、岩手県、秋田県といった行政組織、JR東日本の盛岡支社・秋田支社、3市町の観光商工団体、住民自治組織など多種多

その他の質問

- 地域おこし協力隊の採用・募集
- 越中畑サクラバハンノキ群落(町の天然記念物)
- 湯田ダム竣工60周年に関連する事業は

質問

クマの異常な出没、対応は

林業振興課長

対応の総括と体制整備を急ぐ



唐仁原 俊博 議員

一般質問を終えて

獣害対策に限らず、行政だけでの対応は限界だろう